

(銀のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

## そらとぶノート

年長・毛利 柚月

きょうはとってもいいてんき。きょうはそらをとびたいな。

「そらとぶノートにおねがいしよう。」

ペンギんのペンちゃんがいました。

「うかべ。」

ぴゅー。ペンちゃんがそらたかくとびました。ペンギんは、そらがとべないけどそらがとべてまんぞくです。

しかし、くものおぼけにつかまりそうになってしまいました。が、ぎりぎりセーフ。

きらきらのつぶがふってきました。

「つめたーい。さむーい。」

きらきらのつぶは、おちてかきごおりになりました。そのとき、ノートがゆれてペンちゃんはかきごおりのなかにおちてしまいました。

「かりかり、おいしいな。」

ペンちゃんはあめやさんを見つけました。あまつぶのあめやさんです。

「はいつてみよう。」

おみせのなかには、あか、あお、にじいろなどのいろいろなあまつぶがうっていました。ペンちゃんは、にじいろのあまつぶをえらびました。

「おいしい。しあわせ。」

---

そのとき、ぺんちゃんはママとパパをおもいだしました。

「ちじょうにかえろう。」

おうちのいわでは、ママとパパがまっています。

「まだかしら。」

「そうだね。」

ぺんちゃんは、そらからなきながらかえってきました。ママとパパにあえてうれしかったからです。

「ぼくのママとパパ、ただいま。」

ぺんちゃんは、ママとパパにそらのはなしをしました。

「そらのたびはこわいこともあったけど、たのしかったな。」

---